

CJR Newsletter

2026年5月号



Instagram

@LITTLE_EDO_SAWARA

Instagram



Facebook

Facebook

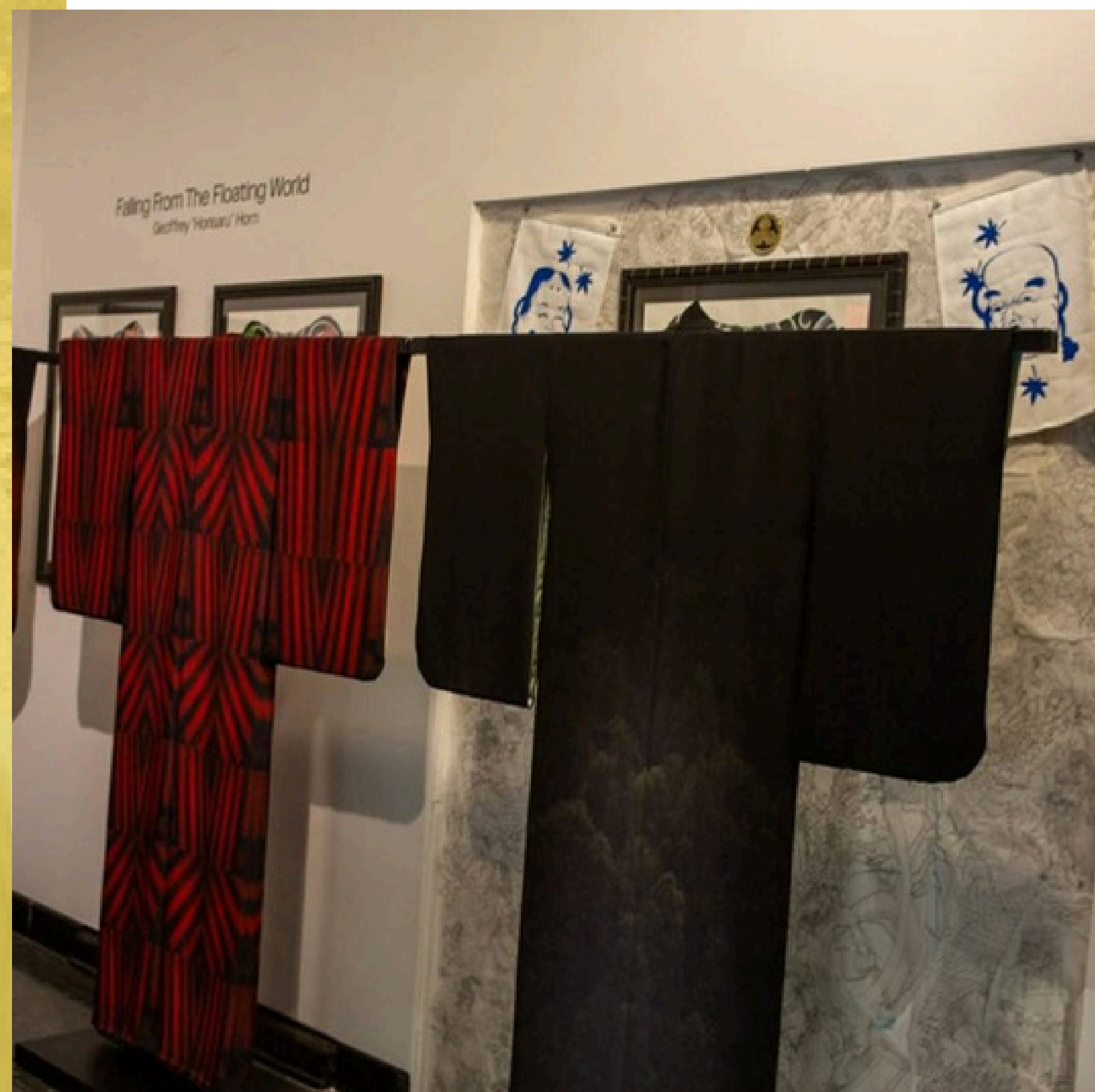


ゴールデンウィークを迎えて、私はもう日本に引っ越してから9ヶ月が経っています。新生活、商工観光課での仕事にそろそろ慣れてきた頃だとは思いますが、やはりたまに違う景色を見て、一瞬ルティーンから抜けてみると色々頭の中が整理しやすくなります。

ということで、私はGWの期間中、アメリカに帰国し友達の結婚式に参列していました！今月のニュースレターでアメリカの結婚式について書こうと思っています。

まず新郎新婦の話から始めていきたいと思います。国際カップルで旦那さんの方は東京出身の日本人で、お嫁さんの方はアメリカ人で私の地元の隣町出身です。私が2023年、アメリカにある大学の夏季語学学校に通っていた時に最初に仲良くなったのがお嫁さんの方で、たまたま地元が隣だということで話が盛り上がりました。それから旦那さんと会う機会があり、彼の方とも仲良くなりました。二人は今東京に住んでおり、私が東京に行く時はよく泊めてくれるとても頼り甲斐のある友達です。

数ヶ月前、お二人のアパートでアメリカのサンクスギビングを一緒に過ごすことになり、結婚式の話が出てきました。彼女の家族や親戚、友達のために私たちの出身地であるコネチカット州で式をあげることにしたと言って、ぜひ来てほしいという話になりました。



遙々遠くの母国まで帰り、数日間だけ過ごしてからまた日本に戻ることを最初躊躇っていた自分もいましたが、お二人の親切なお誘いには断りたくなかったです。GWの期間中に式を上げようというのも、日本からの親戚や友達が行きやすいようにと工夫したものらしく、参列することにしました。友達の一度きりの結婚式には絶対行くべきだなと思いました。

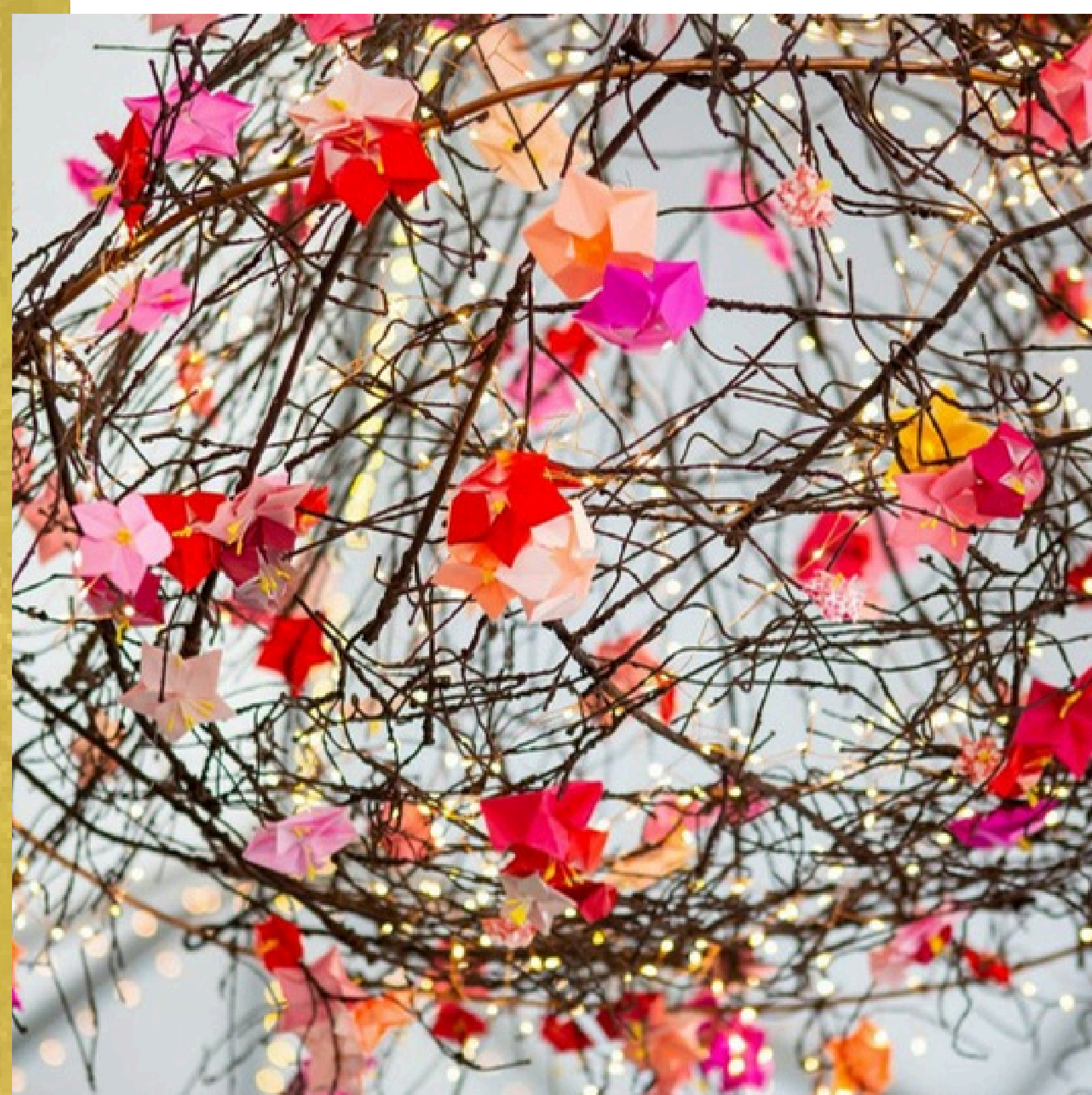
アメリカの結婚式では、ウェディングパーティといって、新郎新婦が大体5人ずつ一番仲が良い親戚や友人を選んで式の時に一緒に前に立って一番近くでカップルの結婚を見届けるとい役割があるのですが、旦那さん側のその一人に選ばれて、最初は少しびっくりしていました。それまでウェディングパーティの一員に選ばれたことがなかったので、どうすれば良いのか分からなかったのですが、国際結婚ということで前夜祭の日にその役割の主な内容がすぐに分かりました。

ちなみに「前夜祭」を翻訳するといわゆるバachelorパーティーとリハーサルディナーという二つの訳出ができると思いますが、ここでいう前夜祭は新郎新婦のご家族や一番親しい友人と親戚で集まり、式の練習をするほかにも盛大な宴会が開かれたので、リハーサルディナーの方になります。リハーサルディナーで私の役割は、英語が達者でない旦那さんのご家族のための通訳をすることでした。結婚式で読まれる司式者のスピーチの和訳など頼まれ、まさか国際交流員の経験を活かす場面になるとは思っていませんでした（笑）

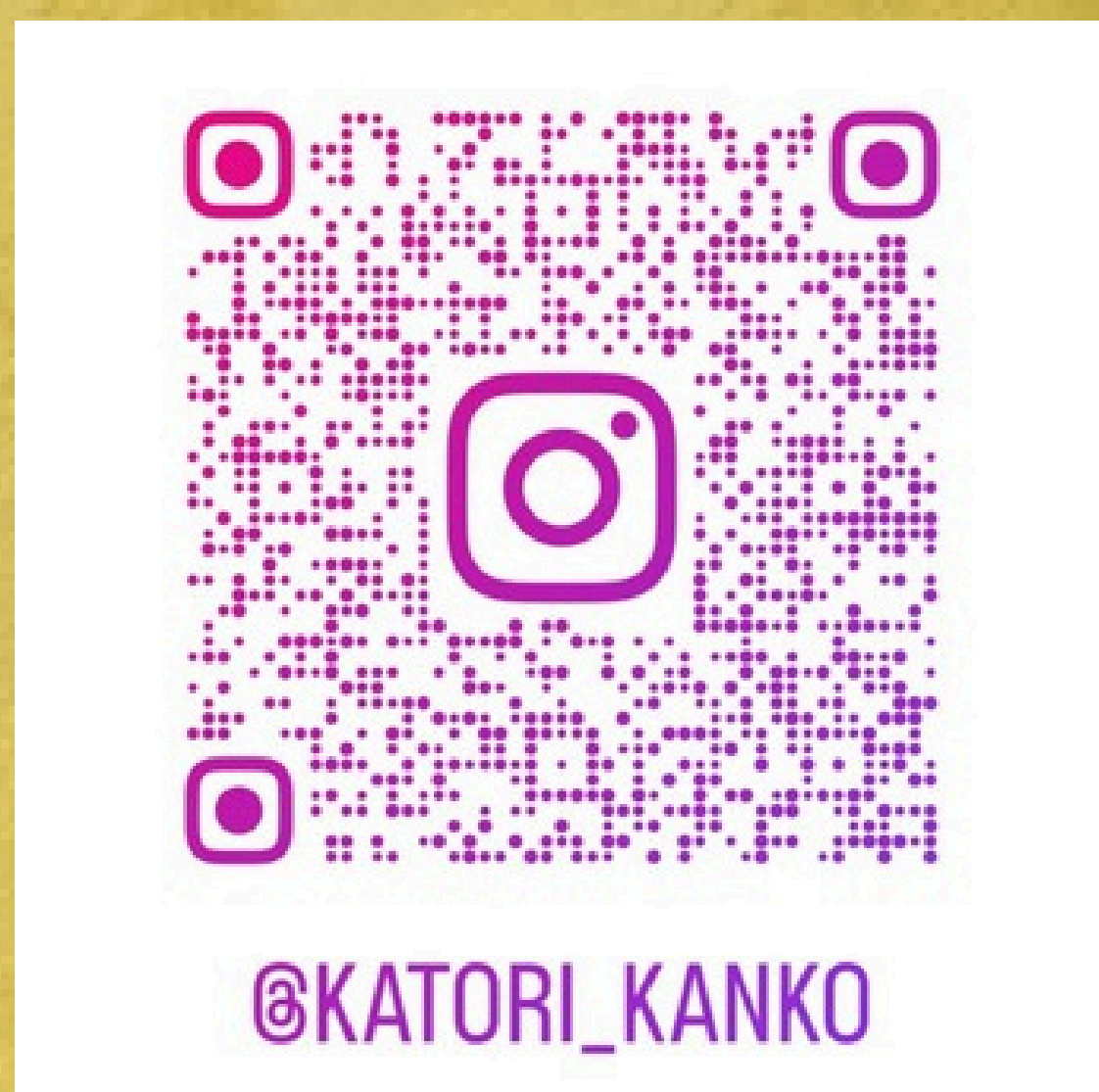
ウェディングパーティに参加していると、不思議なことにいつの間にか面識のない人まで自分の名前を覚えているということがあり、正直自己満足に浸っていました。「通訳良かったよ！日本語わからんけど（笑）」と英語で褒められたりもしました… 😊

まあ、それに関しては一番肝心な意見は旦那さんの方からいただいたのですが、司式者のスピーチを通訳するときは「少し棒読みだった」と言われましたので、多少反省しています… たしかこの前の12月に行ってきた翻訳通訳研修でも同じように言われていましたので、まだまだ伸び代はあるということで良いでしょう（笑）

写真もいろいろ載せましたので、アメリカの結婚式の様子をお楽しみください。以上で5月号でした。最後までお読みいただきありがとうございました！



読み取ってください



観光班のインスタ！